

# ぼ~れ ぼ~れ

2012年  
12月号  
No.389

【月刊】  
POLE-POLE  
スワヒリ語



やさしく おだやかに  
やさしくり・やさしく

理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。  
認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい掛けあって、人として実りある人生を送るとともに、認知症になってしまった安心して暮らせる社会の実現を希求する。



家族の会  
きょう・明日

認知症への暖かい風を大きく

「家族の会」電話相談  
0120-294-456

2  
3  
4  
6  
8  
9  
10  
11

12  
13  
14  
15  
15  
16  
5  
5



発行●公益社団法人 認知症の人と家族の会  
Alzheimer's Association Japan

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内  
TEL.075-811-8195 FAX.075-811-8188  
ホームページ [www.alzheimer.or.jp](http://www.alzheimer.or.jp) Eメール [office@alzheimer.or.jp](mailto:office@alzheimer.or.jp)

# 認知症への暖かい風を 豊かに大きく

辰年から巳年へ みなさんとともに



「認知症の人の幸せをどう高めるか～厚労省『方向性』文書への期待～」と題して、高見代表がNHKテレビ「視点・論点」で意見を述べる（11月5日放映）

会員さん  
からの  
**お便り**



もっと多くの情報が  
ほしい

誰でも発症する  
可能性の病気

ぼ～れぼ～れに期待

一人になりたい時もある

体力的に限界を  
感じています

仏様のような母の笑顔

夫の笑顔が宝物

5年の介護で  
強くなりました

もう少し頑張れます

お待ちしています！

■「ぼ～れ ぼ～れ」へのご意見やお便りは「家族の会」  
編集委員会宛にお送りください。

113 支部だより

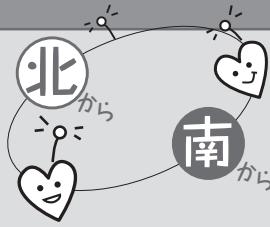
# 介護体験

今回は  
新潟県

「愛…ふたたび、生きがいの介護  
認知症について考える」

新潟県支部 国井勇次

新潟県支部版  
(2012年9月号)



認知症の始まり

気持ちの変化

本当の愛

問題点に戸惑う日々

# いきいき 「家族の会」 まちでも村でも

## 第63回南日本文化賞受賞

鹿児島  
県支部

支部発足以来24年間の「家族の会」の活動が社会的に評価され11月1日に贈賞式。活動の3本柱の一つの相談活動は、毎週火・水・金曜日、そして鹿児島市からの委託の相談事業と併せて26名が担当しています。

最近、相談件数も増えて、「家族の会」が信頼されつつあることが感じられます。水流涼子支部代表は「14年間、支部活動の土台を築いた初代支部代表の馬渡しづみさんははじめ、ご支援いただいている関係機関の方々に感謝」と受賞の喜びを語り、「これからも会員が心を一つにして活動していこう」と呼びかけています。

## 242名の参加!!

長崎県  
支部

支部の諫早つづじ会と諫早医師会等の共催で9月20日にアルツハイマー記念市民公開講座を開催し、242名の市民が参加しました。まず、認知症に関する事前アンケートに対し、あきやま病院精神科医の宮田

史朗先生から、介護者の気持ちを優しく受け止めたアドバイスがありました。参加者から「認知症のことがわかり、参加してよかったです」などの感想が寄せられました。つづじ会の渡部三津子さんは、「参加者からの意見や感想をこれからの活動の参考にさせていただきます」と話しています。

## 支部会報編集への参加を!!

埼玉県  
支部

昭和57年9月15日創刊の支部会報「ふれあい」は、10月号で150号を迎え、改めて支部会報の意義・役割を再確認し、いっそう役に立つ情報紙を目指しています。そして、支部会報発送までをフローチャートにま

とめ、多くの方の編集・発行作業への参加を呼びかけています。編集委員の宮田敏行さんは、「編集活動への参加は、介護生活の息抜き、介護者としての発信の場、社会とつながり小さな社会貢献。このような満足感を介護生活のエネルギーに変え、介護と編集委員を両立できれば…」と、語っています。

## 支部 映画制作に協力

東京都  
支部

国際ドラマフェスティバル優秀賞のテレビドラマ「任侠ヘルパー」の映画化に、支部は舞台セット製作に助言をしました。この映画は、元極道の若者が介護ヘルパーになり、様々な問題に直面する中で、介護問題を

考えることをテーマにしています。西村弘監督は「老人介護やそこに起こる問題を経験したことがない」ということで、スタッフが支部を数回来訪、また、世話人も制作現場に出向きアドバイスをしました。「このような協力も認知症の理解を深める活動のひとつ」と、世話人の山崎正人さんは語っています。

## 国際交流委員会発 イギリスの巻 「ケアでつながる地球家族」

■100万人の“認知症の人の友人”育成



<http://www.dementiafriends.org.uk/>



今月の本人 10/12~14 「全国本人交流会」  
参加者のみなさん (第12回笠川のつどい)

自分の今の気持ちをみんなの前で話し、少しほっとしました



「本人のつどい」でみなさんがまとめた「仲間やまわりの人に訴えたいこと」です。

- ①認知症の病気を正しく知ってください
- ②「私は認知症だ」と安心して言える社会にしましょう
- ③認知症があってもやれることはたくさんあります
- ④認知症があってもできる仕事がしたい
- ⑤困ったときには支えてほしい
- ⑥多くの人と話をしてふれあいたい
- ⑦お互いに「ありがとう」と声をかけあいましょう

◀「本人の思い 訴えたいこと」



▲思わずこんな  
ステキな笑顔  
のMさん



◀山本きみ子さん  
「五平餅はこう  
やってまるめる  
のよ!」

交流会では親睦を深めた夜のお国自慢大会、片山禎夫医師（理事）による個別相談会や奈倉道隆医師によるミニ講演会。スポーツやダンスで身体を動かし、富山県支部の世話人さんによる地元の食



朝日町長の脇さん『朝日町はよい所  
です』とあいさつ

材をふんだんに使った食事に、心も身体も大満足の3日間でした。

話し合いの中で出た“参加してよかったこと、思つたこと”を紹介します。

「いろいろな認知症の方と、家族の関係が理解できました」  
「楽しかったです」  
「自分と同じ考え方と知り合いました」  
「スタッフのみなさんの、今までの気遣いに感謝します」  
「最高の49名の参加となり、ご苦労さまでした。料理内容もいろいろと変化して、おいしかったです」

情報  
コーナー

交流の場